



ゲストハウス「街音 matinee」は、自分自身の手で空き家を改装。たった一人ではできないことでも、市内外の多くの人の協力を得て完成。



1 地域おこし協力隊員時代の企画会議 2 起業後にはセミナーに登壇 3 海外プロガーに塩原温泉を観光してもらったことも 4 移住定住コーディネーターの時に作成したチラシ。市ブランドキャラクターみるひの金太郎あめも作った

交流できる場をつくりたい  
協力隊時代に市観光局の立ち上げに携わった豊田さん。観光局通信やLINEスタンプを作ったり、インバウンド向けの発信を行ったりしました。観光業の人と交流しながら一緒に仕事をする中で「地元の人と外の人が交流できる場所を作りたい。そういう交流を生み出したい」という気持ちが強くなったそう。でも「最初は右も左も分からなかった」とはにかみ、「身体が一つしかないもどかしさに悩んだ時は、何をやりたかったか初心に立ち返りました」と当時の教訓を教えてくださいました。その中で、「この街の皆さんに守ってもらい、協力してもらったので、この関係をずっと続けたい」と思うように。「もう少しここにいたい」という気持ちが続いたんです。それに、これから面白いことが起きそうな街だと当初から感じていました」と定住への心境を明かしてくれました。

協力隊としての時間はかけがえないものだったと言う豊田さん。「応募のきっかけや背景、特技も違う人が同じ環境に集まっています。これがないければ出会えなかった仲間だし、偶然が重なり人の輪が広がることは面白いなあと思います。もっと多くの方に協力隊と出会ってほしいです」と話し、「その延長線上で、少しずつ協力隊の“こうなったらいいな”が叶ったらうれしいです」と現役の隊員にエールを送ってくれました。

移住・起業の経験を生かして  
3年間の協力隊の任期を終え平成29年6月から、ゲストハウスの運営を始めた豊田さん。そこでは一期一会の出会いを大切にしているそうです。また、今年3月までは市の移住定住コーディネーターとして、移住を希望する人の相談に乗りながら情報提供をしたり、移住セミナーで発表したり、自身の移住や起業の経験を生かした仕事もしてきました。「移住相談は、訪問だけでなくメールやSNSなどでもあり、内容も多岐に渡ります。関わった方が移住してくれた時はうれしくなりますね」と笑顔を見せてくれました。

移住・定住

地域おこし

# 地域おこし協力隊ってなあに!?

本市では、平成26年10月から地域おこし協力隊が活躍しています。「地域おこし協力隊」と聞いても、「何をやっているのかな?」と思う人も多いのではないのでしょうか。令和2年7月現在、4人の隊員がそれぞれのテーマで地域協力活動を行っています。今回の特集では、隊員として活躍した後に起業した1期生と、現役の隊員の様子を紹介します。



ゲストハウス「街音 matinee」 本町8-1



この特集は、広報なすしおばら令和2年5月5日号での掲載を予定していたものですが、新型コロナウイルス感染症対策に係る市の非常事態宣言を受け、5月5日号は急きょ内容を変更しました。取材に協力いただいた皆さんに敬意を表し、今号で紹介いたします。

## 地域おこし協力隊 情報!!

### 地域おこし協力隊とは?

平成21年に国で創設された地域おこし協力隊制度。その地域に移住して「地域協力活動」を行う人を「地域おこし協力隊」の隊員に任用。おおむね1年以上3年以下の期間、活動しながらその地域への定住・定着を図る取り組みです。

現在、市では次のテーマで新たに地域おこし協力隊を募集しています。

- ▶募集内容 市の情報発信業務、なすしおばら映画祭の運営業務、シティプロモーションによる地域活性化
- ▶募集人数 1人
- ※業務内容や応募資格など詳しくは問い合わせください。
- ▶問い合わせ 困シティプロモーション課 ☎0287(62)7128



ゲストハウス「街音 matinee」オーナー 豊田彩乃さん

学生時代の経験が今をつくる

平成26年から3年間で、本市の地域おこし協力隊1期生として、観光をテーマに活動した豊田さん。退任後に、JR黒磯駅のメインストリートにあった空き家を活用して、ゲストハウス「街音 matinee」をオープンしました。大学4年生の時に、本市の協力隊募集の記事を見て応募したそうです。「大学時代は社会学を学んでいましたが、休学し、国内外を巡ってたくさん宿泊施設に泊まりました。中でもゲストハウスは、泊まるだけという施設ではなく、その地域に根付いているし、多くのことを共有できる場所だと感じました。自身、地域で暮らしながら、その地域の魅力を発信する仕事がしたいと思いました」と協力隊への応募のきっかけを話してくれました。